

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	電気ハンマードリル使用したブリーチング訓練中、手首を受傷した事案
3. 体験した事例の中心的要素	電気ハンマードリルは、本体のハンドル及びサイドハンドルを持ち、ドリルビットが回転してコンクリート等に穴を開ける資器材である。今回の事故では、回転しているドリルがコンクリート内の鉄筋に引っかかった際、本体が回転しハンドルを持っていた手首を捻って受傷したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	使用上の注意事項を事前に認識していなかったため、上記事象の際、サイドハンドルを保持した手に強く力を入れたまま、手を離す準備が出来ていなかった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
------------------	------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和4年10月13日 午前10時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋内: 自衛隊官舎
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他: 右手骨折
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[救助(通常時)]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他: 倒壊建物を想定したブリーチング訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[29]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[1] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A	電気ハンマードリルを使用する。	
経過2	A	コンクリートに穴を開けていく。	
経過3	ドリルビット	コンクリート(鉄筋)に引っかかる。	
経過4	A	右手をり受傷する。	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった 危険事象の対応方法を知らなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

起こりうる現象の周知が無かった。当事者もそれを確認していなかった。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

KYT等を活用し、事故の起こりえる要因を予測する事が必要である。それを熟知していなければ、何に注意しなければいけないかが不明確である。今後は適正な注意力を身に付けたうえで、訓練に望むことを徹底する。

○装備・資機材の対策について

資器材の特性に関して、取扱い説明書を熟読する等、知識と経験不足を補完するための準備が必要である。また今後の訓練時には座学の実施や、経験者からの危険因子についての事前周知を徹底する。

○活動環境の対策について

今回は安全管理員を適正に配置していたが、災害等発生による人員不足が発生した場合は、訓練中止を考慮する。

○指揮・情報伝達の対策について



通常、ドリルビット
が回転する。



鉄筋等に接触し、
本体が回転する。

右手を捻り受傷。